



波止のまつり

波止のまつりは神崎神社の例大祭に合わせた祭りで、50年以上も前から地元の商店の方々の寄付により、花火が打ち上げられてきました。今年もその伝統の火を絶やすことなく、7月27日に花火大会を開催し、夜空に大輪の花を咲かせました。協賛者の皆様、本当に有難うございました。28日には、船御幸・御神輿が行われ、例年より多くの担ぎ手が集まり、賑やかに練り歩きが行われました。



白鳳祭

8月5日には白鳳祭が開催され、キャンドルイルミネーション、琴浦あごカツカレエグランプリ in 白鳳祭などなど、さまざまな催しが行われました。ステージでは地元の子供たちのダンスチームによるパフォーマンスなどが行われ、たくさんの観客が集まりました。

祭りの最後には、「レーザーライト花火ショー」が行われ、音楽に合わせて夜空を彩るレーザーと花火の競演で会場を沸かせました。



津田侯殿様街道

夢街道ルネサンス (国土交通省) H23年認定



活動団体: 白鳳の郷地域活性化協議会 (H21年5月設立)

活動目的: 1つの集落だけでなく、地域が一体となった交流・地域づくりをすることにより、地域の宝を再発見し、絆を深め、地域に潤いと活性化を図る。

地区の概要: 山陰で唯一の国指定特別史跡「斎尾廃寺跡」があり、古くは奈良時代前期“白鳳時代”から開け、伯耆国八橋郡の中心地であった。八橋往来など、歴史的、文化的にも貴重な遺産が随所に見られる地域である。

【方見神社(上伊勢)】

祭神 天照皇太神、他9神

創立年代は明らかではないが奈良朝の時代、土佐から逃れてきた池田王は当社の神主のもとに隠れていたが、ついに神主となり奉仕した、との伝説がある。当社は4町四方の社領をもち幾多の摂社、末社を合併し、明治5年3月郷社に列せられた。それ以前は上伊勢の大神宮と呼ばれていた。官民、特に代々武将の崇敬篤く、国守の祈願所であった。今でも多くの氏子が初詣等でお参りして賑わっている。

例大祭は10月11日。

(近年は前後の日曜日とすることが多い)

『ことつら昔ばなし』『菊姫物語』③

材木や米などを船で運ぶ事業が成功して、菊姫のところは大変儲かりました。すると鳥取藩はまた、それに目をつけて多額の借金を申し入れて来ました。そこで菊姫は孫の弥四郎と相談して、大阪の豪商から大金を用立ててもらい、それで賄うことにしました。

ところが鳥取藩からの返金は滞り、とうとう菊姫や弥四郎は大阪の豪商から借りたお金が返せなくなりしました。やむおわず船を売り払い、田畑も処分し、菊姫の一族はにわかに没落していきました。

こうして菊姫は、その生涯に二度も大きな不幸に見舞われましたが、その困難にくじけることはありませんでした。

孫の一人弥三右衛門は、新天地を籠津村に求め、そこでたくさんの田畑を開墾し、農業と林業に力を注ぎました。その子孫が河本家です。

また、菊姫が立派に造り直した菊港は、その後、鳥取藩の米蔵の米の積み出し港として栄え、今も当時のままの面影を伝えていきます。菊港が時折見せる荒々しい姿や、また、静かで穏やかな表情は、そのまま菊姫の一生を表しているようです。

『ことつら昔ばなし』

